

科目名	基礎医学実習 ①			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	23 回	時間数	45 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 後期
【授業の目的・ねらい】 臨床工学技士の業務は、医療機器の安全管理、生命維持装置の操作と保守管理、血液浄化、体外循環等広範囲に渡る。理論だけを学ぶのではなく、実習をすることにより深め、実際の医療の現場で役に立つような基礎知識を構築する。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 人の構造及び機能、病理学概論について構造的、機能的、形態的に理解を深めることを目標として実習を行う。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・顕微鏡などの実験機材や医療機器の基本的な取扱い方法を身につける。 ・血液検体や各種薬剤の適切な取扱い方法を身につける。 ・基礎解剖学の知識を自分なりに説明することができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	ガイダンス、レポートの書き方						
2	スタンダードプリコーション						
3	等張液・低張液・高張液と血液の関係について						
4	等張液・低張液・高張液と血液の関係について						
5	心電図・筋電図						
6	心電図・筋電図						
7	血圧測定						
8	心音・呼吸音						
9	呼吸機能検査						
10	呼吸機能検査						
11	中間試験						
12	半透膜の性質について						
13	移乗（ベッドと車椅子、ベッドとストレッチャー）、車椅子移動						
14	移乗（ベッドと車椅子、ベッドとストレッチャー）、車椅子移動						
15	細胞内液と細胞外液（電解質の測定）						
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章 ほか、金原出版株式会社 ・新版エッセンシャル解剖・生理学、堀川宗之、学研メディカル秀潤社							
【準備学習・時間外学習】 ・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと ・講義後は板書と教科書の要点をまとめる作業を行うこと							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点で成績を評価する レポートを20点、中間テストを40点、定期試験を40点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							